

あなたの「まなび」をナビゲート！ enjoy lifelong learning

ma·navi

鳥取県生涯学習情報誌

生涯学習とっとり
vol.
191
2020.11
学びから行動へ、行動から学びへの循環



浜湯山地区の地形について、今と昔をジオラマで表現

特集

ふるさとをこよなく愛する 住民が、地元の魅力を発信！

浜湯山・多鯨ヶ池活性化委員会

- 04 私たちの活動をご紹介します！
木育サポート 森のきこりん(琴浦町)
- 05 とっとり県民カレッジ連携講座情報
(11・12月)
- 19 歴史講座訪問予定地紹介(琴浦編・まとめ編)
- 21 鳥取県立生涯学習センター(お知らせ)
- 23 みてみて♪こんなしとするで～



メンバーはこの地で生まれ育ち、ほとんどが二十世紀梨と砂丘らっきょうの生産農家。この辺は、梨狩りやらっきょうを掘る体験とか外から来た人の恩恵を受けて観光で成り立っている地域。ここが廃れるとみんな困る。人が来てほしい。だからきれいになりたい、恩返しという気持ちがあるんですよ！

メンバーが集う小屋は、まるで秘密基地のよう

ふるさとをこよなく愛する住民が、地元の魅力を発信！

はまゆやま たねが いけ ～浜湯山・多鯰ヶ池活性化委員会～

多鯰ヶ池を観光資源として捉え、地域内外にその魅力を発信する「浜湯山・多鯰ヶ池活性化委員会」。
活動について、委員長の飼牛明さんにお話を伺いました。

地元の宝、多鯰ヶ池

多鯰ヶ池の水は、江戸時代後期から池周辺の農業用水として利用され、地元の浜湯山と山湯山の住民が150年以上も前から、地域を挙げて維持管理を行ってきました*⁽¹⁾。「池の水がないと田んぼができなかった。多鯰ヶ池は昔から地域にとってとても重要な池」と飼牛さんは言います。

多鯰ヶ池は、山陰海岸ジオパーク鳥取砂丘エリア内にあります。平成20年に山陰海岸ジオパークが世界ジオパークネットワークに加盟認定されたことがきっかけとなり、地元の宝である多鯰ヶ池を美しく保ち、その魅力を住民だけでなく外に向けても発信したいという想いが強くなったといいます。

平成28年、多鯰ヶ池周辺の環境保全と地域活性化を目的として浜湯山集落の住民有志25名で「浜湯山・多鯰ヶ池活性化委員会」（以下、「委員会」という）を結成しました。

クラウドファンディングでやる気に火が付く！

砂丘トンネルを抜けると右手に多鯰ヶ池が広がりますが、県道沿いは、雑木林と大きく育った砂防林の松が茂り、多鯰ヶ池が全く見えない状況でした。そこで、池が目の前に広がる昔の風景を取り戻そうと、平成29年から委員会が3年かけてボランティアで草刈りや間伐を行ってきました。このとき、伐採用の防護服などの購入資金を集めるために県の支援によりクラウドファンディングを実施。「クラウドファンディングなんてやったことなくて。よくわからなかったけど、軽い気持ちで始めたら、3日で目標金額に達成して。みんな感激したし、やる気に火が付きましたね。じゃあ次は何をしよう！って」と、うれしそうに話す飼牛さん。地元の歴史を寸劇にして子どもたちに披露してはどうかとメンバーからも提案があったそうです。クラウドファンディングをとおして活動への評価が実感できたことが、一人ひとりの自信につながっています。

「メンバーのほとんどが専業農家なので活動がしや

すい」と話す飼牛さん。「農家だから、トラクターもチェーンソーもユンボもある。農閑期や雨のときは活動時間もとりやすい。農家であることが最大の強み」と続けます。

目玉の、いかだレース！

委員会では、平成29年から毎年7月にいかだレースを主催。プログラムの企画から会場設営、イベント運営まで全て自分たちで行います。手作りいかだに乗って速さを競い、1位、2位、3位、特別賞の他、池に落ちてしまったチームには「ドボン賞」も用意されています。記念すべき第1回は、1チーム4名で20チームが出場。いかだレースのほか、アヒルのおもちゃに子どもたちが自分の名前を書き、^{あんきよ}暗渠の中を流して順位を競う「アヒルレース」なども企画し、毎年工夫を凝らします。

いかだレースには地元はもちろん県外チームも参加。多鯰ヶ池を地域の観光資源として活用しながら外から人を呼び込み、その魅力を発信しています。

また、浜湯山地区の今と昔の地形についてジオラマを制作したり、遊休農地を活用した子どもたちへの農業体験や、鳥取市の委託で除雪作業を行ったりするなど、活動は多岐に渡ります。



多鯰ヶ池で開催される「いかだレース」




通学路途の遊休農地でスイカやイチゴを栽培し、収穫祭や納涼祭で子どもたちに振る舞います。ここは、メンバーのご厚意で借りた畑で「こどものうえん」と名付けられ、子どもたちへの農業体験や地域の交流の場となっています。

大切な地元の宝、多鯰ヶ池



※（1）江戸時代後期まで農業と漁業で生計を立てていたのを、先人が多鯰ヶ池と湯山池を隔てる峠の下に長さ385メートルの地下水路（暗渠）を造り、落差を利用した多鯰ヶ池からの水流で砂を流し湯山池を干拓。水田は、豊かな農産物と豊かな暮らしをもたらしました。

現在は、梨・らっきょうなどの農産物が栽培され、池周辺には、弁天宮・お種社などがあり住民にとって信仰の場でもあります。

 豆知識：昭和30年ごろまでは、手漕ぎボートが30隻ほどあり、観光地としてとても有名だったそうです！



池周辺の環境整備。メンバーは、一声かければいつでも快く参加してくれる元気な人たちばかり



除雪作業は今年で3年目。2.7キロメートルもの距離を除雪するほか、独居の方の家はスコップで玄関先まで除雪をし、高齢者からもとても感謝されています。

これまで、鳥取市立福部未来学園に講師として招かれ、地元の歴史について話をしたことも。昨年は、福部未来学園と一緒に「福部歴史読本」をまとめました。「おじいさんおばあさんに話を聞いて、古い写真があったら持ってきて！」と子どもたちに頼んだという飼牛さん。完成した冊子はとてもわかりやすいと好評で、委員会のホームページでも見ることができます。

集まって語る小屋は、まるで秘密基地

「活動はスムーズですよ。日頃からここで飲んでいるからね。今度はあれしよう！これしよう！って、いろんな意見がでますよ」と飼牛さん。仲間と手作りした小屋の中央には薪ストーブが置かれ、メンバーや地域住民が集まりおいしいものを食べながら語り合います。小屋には調理器具の他、パソコンやプロジェクターも完備。ここで補助金申請のためのプレゼンの練習をすることも。必要なものは全て揃い、まるで秘密基地のようです。

「浜湯山・山湯山は既に活動が軌道に乗っているので、今後は福部町でももっと活動を広げていきたい」と今後の目標を話す飼牛さん。ふるさとをこよなく愛する住民が、地元を活性化しその魅力を発信する活動を継続中です！



委員長の飼牛さん

今年初めての試みとして、委員会は寸劇^{※(2)}に挑戦！

11月の福部町文化祭でメンバーが演じる予定にしていたところ、新型コロナウイルスの影響で中止。

「発表できる場があれば、出かけて行って披露したい！」とメンバーは意気込みます。

※(2) 地元の歴史を伝える寸劇

お殿様と家老、地元の測量士^{しほくいんぎほん}で宿院義般という人が登場します。測量する様子や兵庫県の生野銀山から抗夫を雇い暗渠を掘る様子、埋め立てて田んぼが完成しお米ができて農民たちが喜ぶ様子などが演じられます。



委員会と福部未来学園でまとめた「福部歴史読本」

鳥取市立福部未来学園「みらい」の学習の取組

委員会と福部未来学園との取組を紹介します！

寄稿：鳥取市立福部未来学園 副校長 長谷川 理恵さん

地域探検隊

令和元年10月10日（木）、福部未来学園5年生が、飼牛さんの説明を受けながら地域をめぐり、福部の文化や歴史を学びました。

文化祭での発表

探検で学んだことを劇にして、令和元年11月2日（土）に開催された学園文化祭で、保護者や地域の皆様に発表しました。

福部歴史読本の発行

昨年度、多鯨ヶ池活性化委員会の皆様を中心に編纂が進められていた「福部歴史読本」に、探検隊で収集した情報も加えていただき、今年度初めに完成しました。

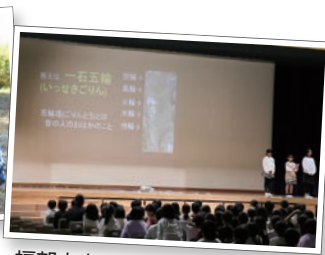
そして、令和2年6月30日（火）本学園にて贈呈式が行われ、5・6年生が参加し、飼牛さんからふるさと福部を思う気持ちと激励のお言葉をいただきました。

今後の予定

今年も「地域探検隊」として、5年生が飼牛さんたちとともに福部地域に出かけます。



地域探検隊で多鯨ヶ池を訪問



福部未来学園文化祭で劇を発表

学園生の感想

飼牛さんは、福部の歴史をたくさん知っておられてびっくりしました。そして、私たちの質問にも丁寧にこたえてくださり、本当に福部のことが大好きなんだと思いました。これからも、もっと福部のことを教えていただきたいです。

連絡先

浜湯山・多鯨ヶ池
活性化委員会

〒689-0105 鳥取市福部町湯山1475

【委員長】飼牛 明さん 090-7501-9930

ホームページ URL : <https://www.tanegaike.com/>



私たちの活動を紹介します

xx

もくいく 木育サポート 森のきこりん

会長：木山 美佐枝さん
<連絡先> sakamoku@tiara.ocn.ne.jp

- <設立年>平成 27 年
- <構成> 14 名
- ①木育活動・自然愛護に共感する個人・団体
- ②木を使った住宅建築に関係する個人・団体
- ③児童・幼児教育に関係する個人・団体

xx

まずは自分たちが楽しむこと!

私たちの活動の目的は、木と子どもの架け橋となり、木を子どもの頃から身近に使っていくことを通じて、人と木や森とのかかわりを主体的に考えられる豊かな心を育てることです。

活動を行う上で大切にしている事は、自分たちが参加して、楽しめているかという事です。全てのイベントに参加できる会員は少ないので、参加した会員が感想や失敗談、良かったことを報告し全員で体験を共有しています。イベントの参加者からお礼状が届くこともあり、活動の励みになっています。



小学校、公民館、こども園等で子どもたちやその保護者を対象とした木育教室、木を使ったモノづくり教室やワークショップ、積み木の「木ころん」を使った積み木遊びやレンタル、木の玩具や木製品、日本古来の木の住まいの形など木の文化の普及・伝承、木育についての研修会の企画・開催等、様々な活動に取り組んでいます。

木育とは
一言でいうと **木が好きな人を育てる活動**
子どもをはじめとするすべての人びとが、木とふれあい、木に学び、木と生きる。それが『木育(もくいく)』です。



日本海新聞ふるさと大賞 2019 琴浦町の部を受賞しました。

世界に一つだけの木のおもちゃに出会う

木育イベントの中に「ロボ木ー」という自分で組み立てる木のロボット製作があり、ロボ木ーの顔、髪型、服などの飾りつけは自由です。

アニメ「ピノキオ」に出てくるおじいさんのようにロボ木ーの生みの親になることができます。ロボ木ーの帽子を作る男の子、おしゃれなカバンを作るお母さん、木の実でピアスをつける男の子、糸で長い髪をつける女の子など毎回違う表情のロボ木ーが誕生します♪

研修に参加して自分磨きもします!

人に伝えるだけでなく、自分たちも木育について学びます。そして研修会を企画し、会員以外の県内外の方とも木の魅力を共有します。智頭町在住の樹木の専門家山本福壽先生と地元の山を散策して木や葉っぱの香りを楽しみます。また木育の専門家である島根大学の山下晃功先生から木育について学びます。そして木山会長を中心に木育インストラクターやおもちゃコンサルタントの資格を取得する会員も在籍しています。

今後の目標や抱負

遊んで終わりではなく、片付けまでを子どもたちにさせてほしいという保護者の声があり、そうした一連の流れを取り入れています。

おかげ様で琴浦町内に限らず西部は南部町、東部は智頭町まで、鳥取県全域で活動しています。会員の募集もしていますので、ぜひあなたも参加してみませんか？



寄稿：佐伯 裕美さん